

鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会委員意見まとめ

(1) 第1次提言時の主な意見

- ・学習面では少人数に魅力を感じるが、人間関係等総合的にみると統合が必要だと思う。
- ・人間関係を築いていく等の面で、人数が少ないより多い方が人間的に成長できると思う。
- ・少人数校だと友達関係等で不安に思うことが多いと、実際に通わせている保護者から聞く。
- ・どの小学校も施設面の老朽化が激しく限界。新しい校舎を整備して早急に統合するべきだと思う。
- ・中学校で、小学校の規模の10倍の集団に属することになるのでは、適応が難しい。
- ・現状に不満を持っていないが、複式学級の様子を見ると、これを回避する必要がある。
- ・運動会などの行事やPTAの活動にしても、児童数の減少で成立しなくなってきていて限界を感じる。
- ・統合するのであれば、児童がうまく統合に適応できるような手立てを講じる必要がある。
- ・統合するのであれば、統合前の学校の歴史や伝統を可能な限り統合後の学校へ継承してほしい。

(2) 第2次提言時の主な意見

① 1校案支持者

- ・2校案が学校自由選択制を採用し、標準規模校を新設、小規模校を改築する前提だと、新設の標準規模を希望する者が多数となり、小規模の存在価値が無くなる。
- ・2校案の小規模校に発達障がい等がある特別支援教育が必要な児童が集中することになる。特別支援教育が必要な児童は、一般の学級で何の支障も無い子と一緒に過ごすことで成長する。
- ・1校に統合し、大人数に馴染めない子たちのために、少人数クラスや特別クラスのようなものを設置するような配慮が必要。リモート技術も進歩していることからそれらを活用して対応する。
- ・特別支援教育が必要な児童が慣れない環境下で頑張るためには相談できる先生が多い方が良い。普通に元気いっぱいな子の保護者と少し特別な支援が必要な子たちの保護者とでは、考えるポイント、悩みのポイントが違うと思う。それを少しでも共有できるような環境下の中、小学校の6年間生活出来たら素晴らしいことかなと思う。
- ・1校に統合した上で、小規模校のメリットを1校の中に入れるような考え方は出来ないのかなという風に思う。
- ・小規模校に特別な支援が必要なお子さんが集中してしまうことにより、最悪、その学校がいじめられている子が行く学校みたいな印象が付く可能性がある。中学校に上がったときに、その子と一緒になったときに何か問題なったりすることあるのではないかと思う。
- ・町内全児童が集約されるため、人口減少等を見通しても、学年毎の複数学級等を維持できる可能性が高い。専科、指導方法工夫改善等の加配教職員の配置を受けやすい。スクールカウンセラー等の人的資源や設備投資等、政策的経費を集中できる。以上の理由により1校統合を希望する。
- ・教員の質を上げ、配慮が必要なお子さんに対してもしっかりとケアする。統合校の校舎を新設する際にハード面からも、多様な個性がある児童に配慮できるようにする。

② 2校案支持者

- 大きな集団に溶け込めない児童が出たときの、逃げ場所じゃないですが、そういった選択肢があるべきじゃないかなと思う。予算的には厳しいところがあるとは思いますが、子どものことを考えるとそういったことが必要ではないかなと思う。
- 小規模校の良さを残しつつ、2校の統合になると色々なことに対応ができる環境がそろうかなと思う。2校になることで選択肢が広がることは、非常にいいことではないかなと思う。
- 障がいがある子だけではなく、いろいろな配慮を必要とする子どもの環境を整えていく必要がある。第1次提言の中でも統合後の学校にスムーズに適用できるようにというのがあり、そういう意味での2校という選択肢がある方がいいと思う。ただ2校であっても教員の加配が無いことや、2校の学校に全く交流がないというのも中学校になった時に色々と問題が起きてくるのではないかなと思うので、同一敷地くらい、もしくは凄く近接した場所に2校、そういう考えがあってもいいと思う。